

公告 昭36. 1. 18 出願 昭33. 6. 3 実願 昭33-28060

考 案 者 柳 沢 明 東京都足立区梅島町1 栗林写真工業株式会社内
出 願 人 栗林写真工業株式会社 東京都足立区梅島町1

(全3頁)

一眼レフレックスカメラに於けるフィルム
駒数標示装置の構造

図 面 の 略 解

才1図は一眼レフレックスカメラに於けるフィルム駒数標示装置の要部見取図。才2図は同上要部の側面図。才3図イは送り爪受杆を作動して送り爪杆にて駒数盤を廻動させる状態を示めず要部平面図。才3図ロは後蓋を開放して送り爪杆及び係止杆の係合を外した状態を示めず要部平面図。

実 用 新 案 の 説 明

本実用新案は一眼レフレックスカメラに於けるフィルム駒数を自動的に標示する標示装置の構造に関するものである。

才2図に於いて符号1は既でに公知のごとく反射鏡筐2内で軸3に軸着され巻き込まれたバネにより矢印A方向に跳上る習性を与えられている反射鏡支持板で側面には突杆4が固着され反射鏡筐2の側面の長透孔5から爪片6に臨んで係合する。槓杆7は反射鏡筐2の側面の軸8に軸着され巻き込まれたバネによつて右旋回力が与えられ反射鏡筐2に植着したピン9で運動は一定に制御し、槓杆7の一端には爪片6が軸10にて軸着され巻き込まれたバネに依り左旋回性を与えられ槓杆7に固着された突杆11と爪片6の凹部との係合でより以上の左旋回は阻止されており該爪片6は前述の如く突杆4と系合し、他端は送り爪受杆12に臨んで係合する如くなされている。

送り爪受杆12は円輪部13で捲戻軸の筒体14により揺動自在に装着され、軸15と爪押え台16を結ぶスプリング17で右旋回性が与えられている。軸15にて送り爪杆18が軸着されておりボデー本体と該送り爪杆18の突起19を結ぶスプリング20で左旋回の習性を与えられる為爪部21は駒数盤22の鋸齒輪23と係合しようとする習性を持ち他端は爪押え台16の立起部24の突起25に臨んでいる。

爪押え台16は軸26にてボデー本体に軸着され巻き込まれた発条によつて右旋回性を与えられており屈曲部27はカメラ本体後蓋28に臨ませ

る。

逆転防止用係止片29は爪押え台16の軸26上にビス30にて軸着されておりバネによつて左旋回性を与え係止片29の爪部31が駒数盤22鋸齒輪23に係合する如くなされて居り他端は爪押え台16の立起部24にある凹部32に臨んでいる。

駒数盤22は一端を筒体14に係止した蔓巻バネにより廻動復帰性が与えられ後蓋28を開放する事に依りスタートマーク迄復帰する機素は公知の通りである。

本実用新案は上記の構造から成るもので一実施例を概説すると、才2図に於いて公知のごとくフィルム巻揚げ途次に始まるミラーの復帰運動の際支持板1の突杆4は槓杆7の爪片6と系合し之れを押圧して槓杆7は左旋回する為送り爪受杆12は才3図イの点線Aのごとく槓杆7に押圧され筒体14を軸として左旋回しこれに伴つて送り爪杆18は左旋回習性を有するので爪部21は駒数盤22の鋸齒輪23の歯底に圧接し係合したまま左旋回するので駒数盤22を1目盛宛左に廻動せしめる。

係止片29は駒数盤22の鋸齒輪が廻動するに当りバネに抗し歯形に沿つて圧接し軸26を中心に微転しながら左廻動して来た駒数盤22の次の歯底と係合する。

ミラーが復帰運動の終了する寸前で才2図点線Bにより図示される様に突杆4と槓杆7の爪片6との係合が外されると押進を解除された送り爪受杆12がスプリング17の張力による自己の習性により元の位置に復帰する。これに伴つて送り爪杆12は駒数盤22の鋸齒輪と係合を外し歯形に沿つて圧接しながら次の1目盛宛の歯底に係合する。係止片29は駒数盤22の鋸齒輪23と係合つたまま駒数盤22の転動復帰を阻止し前記駒送りの行程に移ることが出来る。

これにて駒数送りの作動は完了するが撮影時に

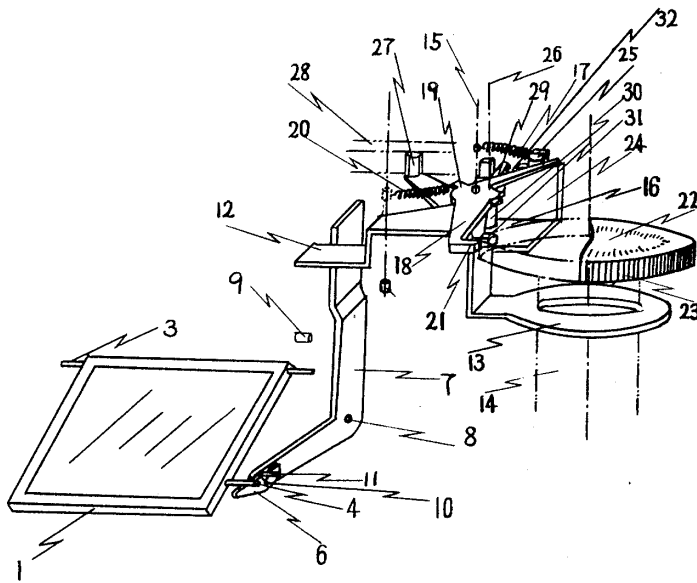
於いてシャッター膜が作動する前に反射鏡は跳上げられ才2図の点線Cの位置に至るまで突杆4は楨杆7の先端爪片6と係合するが爪片6は軸10に対し右旋回して係合が外れバネによる習性で元の位置に復帰し以下前述捲取操作を繰返せばよい。送り爪杆18及び係止片29はボデー本体の後蓋が閉鎖されている間自己の習性により共に駒数盤22の鋸歯輪23に係合しているがフィルム捲取終了後之れを取り出す為又は必要に応じて後蓋28を開放すれば爪押え台19の屈曲部27は制止を解かれ発条の伸展力により軸26を軸として爪押え台16は才3図に示す様に廻動して爪押え台16の立起部24の突起25で送り爪杆18を、爪押え台16の立起部24の凹部32で係止片29を各々の軸に対し左方向に押進するので送り爪杆16及び係止杆19は駒数盤22の鋸歯輪23との係合が解除されて駒数盤22は蓄勢された蔓巻バネにより廻動復帰し駒数盤22上の最初の零の位置に戻る。後蓋28を閉鎖すれば爪押え台16の屈曲部27を押進し送り爪杆16及び係止片29は各々の習性により駒数盤22の鋸歯輪23と係合し前述の駒数送りの作動が可能となるものである。

従来公知のものは捲上レバーハンドルの廻動に関連した機素によつて駒数標示機構を作動させたものである。これ等には捲上レバーの捲上作動圏内に於いて一定の微小な限定角度内で標示機構を作動させる為めシャッターセット時と駒数標示作動とが一致せず不用意に計数を誤る場合があり捲取軸に伴う標示機構部品は複雑な調整を必要とするが本案は公知反射鏡復帰運動を利用して計数標示を行なわすもので捲取レバーの廻動に関係無く捲取軸に複雑な機構を加えず任意の所に収容出来る利点を有するものであり又その標示は極めて確実でかつ自動的に行き構造も簡単でこれに基因する故障を殆んど防止出来実用上有益である。

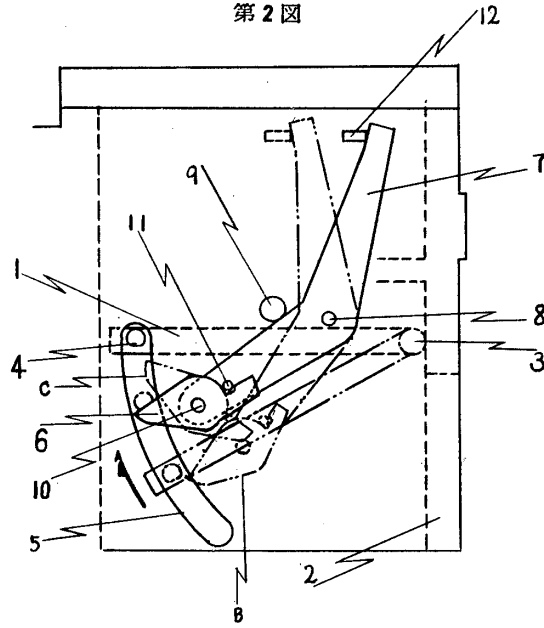
登録請求の範囲

本文に詳記し図面に例示せるごとく一眼レフレックスカメラに於ける反射鏡の運動にて楨杆7を廻動せしめその一端を送り爪受杆12に臨ませ任意の個所例えば捲戻軸を軸として装着された該送り爪受杆12を作動させ送り爪杆18を駒数盤22の鋸歯輪23の一歯強移動させ駒数盤22を1目盛宛送る一眼レフレックスカメラに於けるフィルム駒数標示計の構造。

第1図



第 2 図



第 3 図

